

# NGO-労働組合国際協働フォーラム 2022/2023 年度活動報告 (2022年9月1日～2023年8月31日)

「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals (SDGs)」の実現に向け、NGOと労働組合が協働して社会課題の解決に取り組む場である「NGO-労働組合国際協働フォーラム」の一年間の活動を報告する。

引き続き、「児童労働グループ【ゴール4,8】」、「HIV/AIDS等感染症グループ【ゴール3,8,10】」、「母子保健グループ【ゴール3,5】」の課題別グループの活動に加え、来年本フォーラムは設立20周年を迎えるにあたり、本フォーラムの今後のあり方を検討するワークショップを複数回開催した。

## I. フォーラム全体の活動

### 1. 活動体制

#### 1) 連絡調整会議

機能：暫定版活動計画・予算の協議と承認、フォーラム活動に関する情報交換、報告

参加者：(必須) グループ代表 (原則 NGO, 労組各1名)、(任意) 希望するメンバー

開催実績：

第1回 2022年9月28日

主な議題：課題別グループ・広報タスク活動報告/報告/事業計画・予算の仮承認/ /事業報告・決算の準備状況の報告/キャンペーン再申請/総会連絡

第2回 2023年3月24日

主な議題：課題別グループ・広報タスクの活動報告/Jフォーラム勉強会進捗報告/20周年ワークショップ進捗報告事務局体制変更・会費納入・中間監査報告

第3回 2023年8月2日

主な議題：課題別グループ・広報タスクの活動報告/予算執行状況報告 /キャンペーン申請 /その他(組合繁忙期) /方針策定ワークショップ

#### 2) 総会

機能：活動計画、予算、活動報告・決算の承認。フォーラム活動に関する全般的な意見交換

参加者：全メンバー

開催実績：

2022年11月7日

主な議題：2021-22期の活動報告・決算承認(含む会計監査報告)/2022-23期の活動計画・予算書承認/20周年(2024年)に向けた取組協議/広報タスクによる動画制作、キャンペーン/2022-23会計管理手順

#### 3-1) 活動種別：グループ活動

次の3つの課題別グループで活動した(新規グループ形成なし)。

- ・ 児童労働グループ【ゴール 4,8】
- ・ HIV/AIDS 等感染症グループ【ゴール 3,8,10】
- ・ 母子保健グループ【ゴール 3,5】

### 3-2) 活動種別：広報タスクチーム

広報戦略の見直しおよび、本フォーラム設立20周年に向けた取り組みとして、これまでの本フォーラムの実績を振り返り、2025年以降の目的・あり方(含む継続是非)を決定するワークショップ企画・実施した。活動内容の詳細はIIタスクチーム活動にて報告する。

### 4) 会員・会費

会員：13NGOメンバー、14労組メンバー

会費：計27メンバーから納付があった

### 5) 会計監査

担当メンバー：

労組) 自治労

NGO) (特活) エファジャパン

会合実績：

(予定) 2022年10月24日 会計監査の実施(2022-23期決算案について)

## 2. 共通活動計画

### 1) 広報活動

協働事務局は、本フォーラム概要や各グループ活動情報を発信するためのYouTubeチャンネル、Facebook等の公式媒体の管理と、フォーラムメンバーリングリストの管理・発信を行った。

本フォーラム設立20周年に向けた取り組みは、広報タスクに企画・実施を依頼し、フォーラム全体で議論を行い、2023-24期および以降の方針案を整理した。

### 2) フォーラム勉強会

今期は2つの課題別グループおよび1つのメンバー団体から提案があり、1件実施した。

第二回連絡調整で下記2つが論点となった。2点を踏まえ、協働事務局で整理し、提案メンバーに提示し、今年は試験的に行うこととなった。

①対象(一般公開を含むフォーラムの勉強会申請の扱い)

②登壇者に対する謝金(メンバー団体から複数のスタッフが登壇する場合)

試験的に制度変更した部分：

基本情報：フォーラム勉強会 企画・運営体制について

#### 2 対象

現行) フォーラムメンバー団体関係者向け(内容によっては、一般参加募集も可能とする)

変更) フォーラムメンバー団体関係者向け(本勉強会の趣旨を踏まえ、原則一般参加募集は

行わない。フォーラムメンバーと一般向け双方に対して発信したい企画の際は別途「キャンペーン支援」制度の活用を検討する)
<p><u>6 (追加) 提案者</u>  <u>個々の労働組合メンバー、NGO メンバー。課題別グループ。</u></p>
<p><u>7 募集方法・テーマ</u>  現行) メンバー/課題別グループから通年でテーマ募集。  (例: 個々の労働組合や NGO メンバーが推進しているキャンペーンや好事例の共有等)</p> <p>変更) メンバー/課題別グループから通年でテーマ募集。  (例: 個々の労働組合や NGO メンバーが取り組んでいる社会課題、推進しているキャンペーンや好事例の共有、課題別グループが新たにフォーラムメンバー全体で勉強したいテーマ等)</p>
<p><u>9 費用</u>  現行)  参加: 無料。  謝礼支払い対象: 登壇者ないし団体 (一人 2 万円 (税込)。個人または団体受取。個人受け取りの場合は源泉徴収を実施。  支払に関する事務は協働事務局が行う。</p> <p><u>変更)</u>  <u>参加: 無料</u>  謝礼支払い対象: 登壇者。登壇者とは勉強会テーマに関連した専門知識・事例紹介を行う者 (挨拶や進行役は対象としない)  謝礼受取方法: 登壇者個人ないし登壇者所属団体  謝礼額 (消費税込):  <u>登壇者個人受取の場合 (一人 2 万円 (源泉所得税の徴収後))</u>  <u>登壇者団体受取の場合 (一団体 2 万円)。同一団体から複数名登壇者がいた場合でも同金額)</u>  <u>支払事務: 協働事務局が行う。登壇者個人受取の場合は源泉所得税の徴収を実施。</u></p>

実施実績:

開催日時	提案	タイトル	参加人数
2023 年 8 月 7 日	母子保健 G	国際社会から見た人権—健康と SRHR の観点から	17

### 3) キャンペーン支援

制度概要:

組合員と一般市民が共に参加できるメンバーが関わっているキャンペーンを本フォーラムが積極的に支援することで、SDGs の達成に寄与する。支援是非は連絡調整会議が決定し、次の機

能は協働事務局が担当する。

- 1 キャンペーン支援制度の告知。
- 2 支援するキャンペーンについての書類審査、連絡調整会議への提案。(申請団体と共に)
- 3 承認キャンペーンのフォーラムメンバーへの周知。

実績一覧：

前期から継続となった以下の件については扱うテーマについて学ぶ機会として勉強会と G7 サミットを受けたイベントを行うことを計画した。イベントについてはグループ内の協議で延期となったものの、関連テーマへの理解促進の一助として行なった試写会がグループ以外のメンバーにも案内されて行われた。(グループ報告を参照)。

キャンペーンタイトル：新型コロナを教訓に、「すべての人に健康を」！＝国際連帯税の導入などで、パンデミックへの備えの確立と、SDGs ゴール 3 の達成をめざそう！＝

申請者：NGO・労働組合国際協働フォーラム エイズ等感染症グループ

<テーマ理解のための勉強会>

日時：1月25日午後3時～4時

タイトル：G7 広島サミットの重要課題となる『パンデミック予防・備えと対応』(PPR) について、NGO と労働組合で互いに学びあおう

<試写会>

日時：8月8日11時半～12時半

ドキュメンタリービデオタイトル：『新型コロナが映すいのちの格差—公正な医療アクセスを求める世界の市民社会』

制作：「新型コロナに関する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」

### 3. 事務局体制

#### 1) 実績

労働組合側事務局：日本労働組合総連合会(連合)、

NGO 側事務局：(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC)

#### 2) 事務局体制変更

NGO 側事務局の JANIC の体制は 4 月から松尾が退任し、渡辺、中山 2 名体制となる。。

## II. タスクチーム活動

### 広報タスクチーム

#### 1) 基本目標と活動

・フォーラムの広報媒体(公式 YouTube にあるホワイトボードアニメーション等の動画等)を活用し、フォーラムメンバーとメンバーが接点を持つ周縁ステークホルダーや外部を対象とし、フォーラムを通じた課題解決への参加を促す。

・フォーラムメンバーの協力を得た発信に取り組む。

・フォーラム設立 20 周年に向けた取り組みをフォーラム全体で議論するための企画案を策定する。

## 2) メンバー

日本労働組合総連合会神奈川県連合会（連合神奈川）

日本労働組合総連合会（連合）

（特活）アジア・コミュニティ・センター21

（一社）SDGs 市民社会ネットワーク（SDGs ジャパン）

（特活）エファジャパン

（特活）シャプラニール＝市民による海外協力の会

（特活）国際協力 NGO センター

## 3) 実績

・今期は、本フォーラム設立 20 周年取り組みに重きを置き、メンバーの協力を得ながら、本取り組みを発信することを広報戦略とした。

・本フォーラム設立 20 周年に向けた取り組みでは、これまでの本フォーラムの実績を振り返り、2025 年以降の目的・あり方（含む継続是非）を決定するワークショップを、外部ファシリテーターの参画のもと企画し対面で 3 回実施し、今後の方向性をアウトプットとした。

2022 年 4 月 11 日、5 月 30 日、8 月 3 日（連絡調整会議内にて実施）

・設立 20 周年に向けた取り組みに関する会合は、外部ファシリテーターの参加含め 11 回実施した。

2023 年 1 月 24 日、3 月 10 日、3 月 24 日、3 月 29 日、4 月 4 日、4 月 25 日、5 月 24 日、6 月 20 日、6 月 29 日、7 月 21 日、8 月 17 日

・タスク会合開催は、2 回実施した

2022 年 10 月 19 日、2022 年 12 月 23 日

## 目標と実績、達成度

ワークショップ	労働組合参加	NGO 参加	発信	メンバーの発信
第 1 回 (4/11)	8 名/5 組織	6 名/4 組織	1	4
第 2 回 (5/30)	7 名/6 組織	8 名/5 組織	1	2
第 3 回 (8/3)	2 名/1 組織	7 名/5 組織	—	—

## 4) 成果・課題

<成果>

・20 周年ワークショップでは、対話を通じメンバー同士の関係構築が一定程度達成できたと共に、議論を通じメンバーの持つ本フォーラムへの期待と課題が可視化された。

・上記をもって、今後の方向性を具体的に出すことができた。

### ①コアチームの発足

（ア）時代要請に基づき、労働組合と NGO の本業および SDGs が重なったテーマの設定

（イ）フォーラム全体で取り組める（ア）に関するシンポジウムの企画・開催

## ②課題別グループ・タスク活動の評価振り返り

- ・プロのファシリテーターによる、ワークショップのデザイン設計およびファシリテーションにより、意見を出しやすい場づくりと客観的かつ具体的なアウトプットの創出を実現した
- ・2回のワークショップのレポートを作成し、欠席メンバーへのフォローおよびNGO 労組フォーラムの発信を行った

### <課題>

- ・全3回のワークショップ参加者は限定的となり、欠席者へのフォローに課題が残った
- ・メンバーの協力を得ての発信は、実施団体あしび悩みおよびフォロー体制の構築まで至らなかった。

## III. 課題別グループ活動

### 1. 児童労働グループ【ゴール4、8】

#### 1) 基本目標

世界には1億6000万人、世界の子ども10人に一人が児童労働をしている現状がある（ILO、2021）。SDGsには、「2025年までにすべての形態の児童労働を終わらせる」ことが目標8のターゲット7に掲げられた。当グループは、労働組合とNGOの連携を通じ、児童労働ネットワーク（CL-Net）とも協力しながら、児童労働問題が解決に向かうよう推進活動を行うことを基本目標とする。

※児童労働ネットワーク（CL-Net）とは

児童労働に問題意識をもち、日本からこの問題の解決に貢献することを目指すNGO、労働組合などが加盟するネットワーク。

#### 2) 当年度（2022/2023年）の目標

労働組合員や一般市民へ児童労働問題の現状を伝え、解決のために自ら行動を起こす人が増える契機となるよう取り組んでいく。SDGsで掲げられた児童労働撤廃の目標年（2025年）まであと3年となる中、より効果的な活動を検討し探究していく。

※グループが掲げるSDGsのゴールに当年度より「目標4：質の高い教育をみんなに」を追加。「目標8：働きがいも経済成長も」の「ターゲット7：児童労働の撤廃」を中心に置きつつ、教育分野についても取り組みを進めていく。

#### 3) 参加組織

<労働組合：6組織>

- ・IUF-JCC
- ・自動車総連
- ・JAM
- ・情報労連
- ・日教組
- ・UAゼンセン

<NGO：4組織>

- ・アムネスティ・インターナショナル日本
- ・ACE <事務局>
- ・国際労働財団
- ・シャンティ国際ボランティア会

#### 4) 活動実績

##### (1) イベント開催、出展

###### 1 第94回メーデー中央大会

日時：2023/04/29

場所：東京都・代々木公園

参加人数：約200名

活動内容/実績：4年ぶりにブース出展し、児童労働にNO!の意思を示すレッドカードを掲げて写真を撮影する「レッドカードアクション」への参加を呼びかけた。200名以上がアクションに参加し、62枚の写真を撮影した。アクション参加者には、児童労働撤廃に取り組むカカオ原料が使われたチョコレート「ブラックサンダー」を配布し、私たちと児童労働のつながりや児童労働のない未来に向けた具体的な変化が身近なところで既に起きていることを伝えた。撮影した写真は、後日児童労働グループのX(旧Twitter)アカウントに投稿し、SNS上でも児童労働撤廃を呼びかけた。

###### 2 JAM第25回定期大会

日時：2023/08/31

場所：静岡県・ツインメッセ静岡

参加人数：約700名

活動内容/実績：2日間にわたり対面で開催されたJAM大会の1日目の終わりに登壇し、国内外の児童労働の現状を伝えた。参加者には、児童労働グループで作成した啓発リーフレットを配布し、各組織でも児童労働や子どもの権利について関心を持ち、理解を深める機会を作ることを呼びかけた。

##### (2) CL-Netとの共同事業

CL-Netが行う「ストップ!児童労働キャンペーン2023」の広報協力として、レッドカードアクションへの参加呼びかけ、6月3日に開催された児童労働ネットワーク主催イベント告知等を行ったほか、キャンペーン広報物の制作を支援した。

<ストップ!児童労働キャンペーン2023実績>

レッドカードアクション

投稿枚数(Facebook、Instagram、Twitter総計)：190枚

\*過去実績：1,530枚(2019年)、120枚(2020年)、326枚(2021年)、180枚(2022年)

参加人数(Facebook、Instagram、Twitter総計)：1,920人

\*過去実績：7,650人(2019年)、1,696人(2021年)、1,402人(2022年)

##### (3) グループ会議、勉強会等

<グループ会議>

9月6日、11月15日、1月13日、4月6日、8月28日

## 5) 成果と課題

### <成果>

・2025年に迫るSDGs 8.7の目標年に向けて、グループとしてどのような活動を行っていくかを見直す機会を対面とオンラインのハイブリッド開催で2度ほど設けた。児童労働撤廃に向けてどのように変化を起こすか、それに向けてグループとして何を行うか、が明確になった。

・メーデー中央大会やJAM大会など、数年ぶりに対面の場で活動を伝え、広く児童労働をなくすアクションへの参加を呼びかけることができた。今後も状況を注視しながら、オンラインと対面を使い分け/組み合わせ、より効果的な活動内容を検討・試行していく。

・メーデー中央大会は、どの程度反応があるか想像がつかない中での出展となったが、メンバー組織を中心に多くの人がブースを訪れ、結果的に「ストップ!児童労働キャンペーン2023」全体の写真総数の3分の1にあたる写真を撮影することができた。メンバー組織のつながりを生かし、キャンペーンの広がりにも貢献することができた。

### <課題>

・学習会については、児童労働ネットワーク主催イベントの広報協力に加えて、児童労働グループ主催での実施を計画していたが、実施することが出来なかった。グループ内で学習会チームと啓発チームに分かれて企画・検討を進める活動のベースは出来つつあるので、次年度に向けてそれらが有効に働くよう、開催方法や対象の検討を進めていく。

## 2. HIV/エイズ等感染症グループ【ゴール 3,8,10】

### 1) 基本目標

SDGの目標3「あらゆる年齢の全ての人々の健康な生活を保障し、福祉を促進する」のターゲット3.3として、「2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった感染症を終息させるとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する」と挙げられている。また、全ての人々が経済的困難に直面することなく必要とする保健医療サービスを受けられることをめざすターゲット3.8「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成」も世界の目標として重視されている。これを踏まえ、SDGsが目指す「誰一人取り残さない」社会を実現するために、当グループはSDGs目標3のHIV/エイズを中心に感染症に関する課題に対して取り組む。

NGOと労働組合が協力し、労働組合員や一般の人々に対して、国内外のHIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う。労働組合・NGO双方のネットワークを通じて、その活動への支援参画を促す。

### 2) 当年度(2022/2023年)の目標

- ・新型コロナウイルス感染症やHIV/エイズ、その他感染症に関する課題について、一般の人々・労働者への啓発に貢献する。
- ・グループ参加団体が、新型コロナ感染症やHIV/エイズ、その他感染症、保健の



課題に取り組む関係組織との協力関係を強化する。

・グループ参加団体がより一層新型コロナやHIV/エイズ等をはじめとする保健の問題に関する知識を深めるため、グループ参加団体個々の持つ知見や情報を共有し、それぞれの活動に生かし、また広く啓発活動を行えるよう研鑽に努める。

### 3) 参加組織

<労働組合：2 組織>

- ・インダストリアル・JAF
- ・国際食品労連日本加盟労組連絡協議会

<NGO：3 組織>

- ・シェア＝国際保健協力市民の会
- ・グローバル連帯税フォーラム
- ・アフリカ日本協議会<事務局>

### 4) 活動実績

(1) イベント開催、出展：主催

#### ① 座談会 (JAM)

日時：2023年2月3日(金) AM10時30分～11時30分

場所：JAM 事務所

参加者：

JAM 村岡伸江(児童労働Gに参加)、藤岡小百合(外国人相談対応)、ミンスイ(ビルマ出身、母国語で対応)

NGO 労組協働フォーラム 西山、稲場、鷺崎、恵島、廣内

活動内容／実績：在日ビルマ市民労働組合を支援してきたJAMと意見交換を行い、技能実習制度開始以降深刻になった労基法違反、人権侵害等について相談員を配置して対応してきた具体的な事例を紹介してもらった。NGO側ですでに実施しているサポートや医療費未払いによる病院の診断拒否問題などについても意見交換を行った。

#### ② 啓発用映像教材『新型コロナが映すいのちの格差—公正な医療アクセスを求める世界の市民社会』試写会

日時：2023年8月8日(火) 11時30分～12時30分

参加者：HIV/エイズ感染症グループメンバー、NGO 労組協働フォーラム事務局メンバー

活動内容／実績：新型コロナを教訓に、「すべての人に健康を」！＝国際連帯税の導入などで、パンデミックへの備えの確立と、SDGs ゴール3の達成をめざそう！＝キャンペーンは、1月25日の勉強会以降、実施に至らなかったが、今後の取り組みのヒントにすべく表記映像教材の試写会を行った。

(2) イベント開催、出展：共催

#### ① 勉強会：G7広島サミットの重要課題となる「パンデミック予防・備えと対応」(PPR)について、NGOと労働組合で互いに学びあおう

日時：2023年1月25日(水) 15時～16時

場所：オンライン

参加者数：28人

活動内容／実績：G7 サミットに向け、国際的な保健課題とその取り組みの現状、そして労働組合としての提言の内容について、NGO と労組のそれぞれの取り組みを共有して相互理解を深めるための勉強会を行った。C7 の課題は主に国際保健分野についての情報提供を行い、労働組合側からは L7 の G7 への関わりやコミュニケーションについての情報が提供された。

## ② ホットジェネレーション（共催）

日時：2023 年 2 月 24 日（金）16:30～（1 回目）19:00～（2 回目）

場所：きゅりあん小ホール

参加人数：440 名

活動内容／実績：エイズ啓発のメッセージの入ったティッシュや、エチオピアの情報や感染症の状況に関してまとめたチラシを観客に配布した。さらに会場内においてアナウンスを流したり、会場にブースを出展した。

## ③ メーデー会場でのブース出展

日時：2023 年 4 月 29 日（土）午前 10 時～午後 1 時

場所：代々木公園 メーデー会場

参加人数：7 人（スタッフ数）、ブースに立ち寄った人数（160 人）

活動内容／実績：HIV/エイズに関するクイズを作成し、答えてくれた人には簡単な解説で情報提供をしつつ、景品のうまい棒とエイズの啓発メッセージの入ったポケットティッシュを渡した。ブースに立ち寄って話を聞いた人は 160 名に上った。HIV/エイズについて言葉では知っていても最新の状況について知らない人も多く、啓発の機会となった。

## 5) 成果と課題

### <成果>

労働組合と感染症グループとの外国人労働者の健康に関する座談会は、在日ミャンマー人の労働組合を支援している JAM に具体的な話を聞くことができた。昨年の U A ゼンセンに続き、具体的な課題や支援内容についての意見交換を行うことができた。4 年ぶりのメーデーでは、ブースを出展しボランティアの参加もあって 200 名近い人に HIV/エイズに関する情報を届けることができた。景品の配布で、子ども連れの人にも立ち寄ってもらうことができた。共催イベントのホットジェネレーションでは、エチオピアに関する保健情報も含めて、HIV/エイズの啓発活動を行った。

### <課題>

Civil7 と Labor7 の協力によるキャンペーンについては、1 月の勉強会が情報交換の機会になったが、それ以降は Civil7 に関する活動が多忙を極めたこともあり、スケジュール調整の難しさからキャンペーン活動の一環となるイベントを開催することができなかった。ただし、今後もパンデミックへの対応を含む国際保健課題に関する取り組みは NGO、労組を問わず重要である。公正な医療アクセスに関する啓発映像教材『新型コロナが映すいのちの格差—公正な医療アクセスを求める世界の市民社会』の試写会をグループメンバーと事務局有志で行った。今後の活動にどのようにいかせるかを検討する必要がある。また、フォーラム全体のワークシ

トップでも提案されたグループの再編や名称の変更がある場合には、本グループの活動も再検討が必須となる。

### 3. 母子保健グループ【ゴール 3,5】

#### 1) 基本目標

- (1) 労働組合と NGO が協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう（啓発拡大）
- (2) SDGs のゴール 3 と 5：あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する/ジェンダー平等を実現するための実現可能なアクションを促し、参画を拡大化させる（行動促進）

#### 2) 当年度（2022/2023 年）の目標

新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中、基本目標の達成に向けて、労働組合と NGO とで力を合わせて取り組みを検討・実施していく

#### 3) 参加組織

<労働組合：4 組織>

- ・全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会（電機連合）
- ・日本基幹産業労働組合連合会（基幹労連）
- ・国公関連労働組合連合会（国公連合）
- ・全日本自治団体労働組合（自治労）

<NGO：1 組織>

- ・公益財団法人ジョイセフ<事務局>

#### 4) 活動実績

(1) イベント開催、出展  
なし

(2) 加盟組合集会での啓発活動

##### ① 国公連合 第 22 回定期大会

日時：2022 年 10 月 11 日

場所：連合会館（オンライン併用）

参加人数：100 人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

##### ② PSI-JC2022 年度ジェンダー平等セミナー（国公連合・自治労共催）

日時：2023 年 10 月 28、29 日

場所：主婦会館プラザエフ（オンライン併用）

参加人数：130 人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

##### ③ 国公連合 第 21 回中央委員会

日時：2023年1月27日

場所：連合会館（オンライン併用）

参加人数：100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

④ 自治労 自治労町村評議会中国地連会議

日時：2023年2月16日

場所：自治労会館

参加人数：100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

⑤ 自治労 国際女性デー集会

日時：2023年3月8、9日

場所：自治労会館

参加人数：100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

⑥ 国公連合 さんかくスクエア

日時：2023年5月13日

場所：連合会館（オンライン併用）

参加人数：100人

活動内容/実績：母子保健の啓発活動（資料配付・ドリップコーヒー試飲）

(3) グループ会議、勉強会等

<グループ会議>

・2022年10月31日、2023年1月16日、4月14日、8月9日

<勉強会>

（グループ内）

・1月16日：日本とザンビアにおける子宮頸がんの現状と予防啓発活動について

（対応者：ジョイセフ櫻井彩乃、柚山訓）

・4月14日：G7プロセスおよび国連人権理事会におけるSRHRグローバルアドボカシー

（対応者：ジョイセフ斎藤文栄）

（フォーラムメンバー向け）

・8月2日：国際社会から見た人権ー健康とSRHRの観点から

（講師：谷口真由美、ジョイセフ神谷麻美、草野洋美）

5) 成果と課題

<成果>

・加盟組合集会での資料と試飲用コーヒードリップパックの配付、またオンライン参加者への事前配付による広報啓発活動を実施し、のべ630人の組合員に母子保健の啓発活動を実施することができた。

・フォーラムメンバーを対象とした勉強会の開催を通じて、女性の健康と人権に関する日本の

現状とグローバルアドボカシーについて、フォーラムメンバーの知見を深めることに寄与した。

<課題>

・母子および女性の健康の課題に労働組合が取り組む意義について、母子保健グループの枠を越えての周知拡大が十分にできていない。課題別グループの位置づけや役割についてのフォーラム内での今後の議論もふまえ、母子保健グループとしての方向性を検討していきたい。

以上